



# 大阪YWCA

10  
2023

<http://osaka.ywca.or.jp>

YWCA (Young Women's Christian Association)は、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

## 国際人権基準に

## 立脚した入管行政を

ビスカルド篤子



から国際人権基準を満たすよう何度も見直しを求められました。日本政府は国連に法的拘束力はないとして取り合いませんでした。また国会審議中、ある議員は「国益なくして人権なし」と言い放ちました。まるで人権は誰かが与えたり剥奪したりできる「資格」であるかのようです。

改定入管法は成立してしまいました。私たちは決して諦めず難民や青少年たちに在留許可が得られるまでただ漸進する毎日です。

カトリック大阪教区社会活動

センター・シナピスは「谷間に置かれた人びとの心を生きる教会」を趣旨とする活動組織ですが、設立当初から特に難民移住者の支援に力を注いできました。

私たちが関わる外国籍住民の中には、いわゆる「不法滞在者」が多数含まれます。「不法滞在」という響きは法治国家の秩序を乱す犯罪者のイメージがありますが、一人ひとりに丁寧に向き合うと、それぞれ送還を望まない理由があることがわかります。

よくある事例は、「日本人の配偶者等」の在留資格を持って

いた人が、配偶者の暴力から逃

れ別居していたところ、勝手に離婚届けが出されて在留資格を失うケースのほか、日本人の实子を扶養する母親、あるいは、数十年前に来日しそのまま時が経ってしまった高齢者や、日本に生まれ育つ青少年たちなど、犯罪に無縁で地域に定着性のあ

る人たちが殆どです。こうした非正規滞在者のうちシナピスで保護する最多のケースは難民申請者です。経済先進国の中でも極端に難民認定率の低い日本では、なかなか難民と認められないのが実態ですが、

本国での迫害を恐れてやむを得ず何度も難民申請をする人が後

を絶ちません。

そんな中の今年6月、外国人の収容・送還のルールを変える改定入管法が可決、成立しました。私は難民移住者たちとともに国会中継を見ていましたが、参議院で法案が強行採決されると、誰もが落胆の声をあげ、センターは重苦しい空気に包まれました。私たちの仲間である難民申請者たちは今後「強制送還の対象」になり、送還を拒む青少年たちは「刑事罰の対象」になり、そして彼(女)らを擁護し在留許可を求めて運動する私たちもまた共犯者として処罰される対象となるのです。

この法案は、国連人権理事会

びすかるど あつこ

1963年生まれ、神戸出身。カトリックミッションスクールで社会科・宗教科の教鞭を執ったのち、1992年カトリック大阪大司教区「平和の手」の事務局員として入職。2002年組織改編によりシナピスと改称、専従事務局員として特に難民移住者相談デスクとして勤務。現シナピス副センター長。神戸女子学院大学非常勤講師

# ピースフェスティバル2023

## 私たちのカラフルコミュニケーション

今年の大阪YWCAのピースフェスティバルは、9月9日（土）に梅田会館で行われた。渡日・滞日外国人のおかれた状況や人権問題、それに大きく関わる入管法の問題点について知識を得た。そしてミャンマーで苦難の中にある方々に寄り添い、思いを深め、私たちが実現したい「共に生きる社会」をどうやって実現できるのか考える1日となった。



### ミャンマーを忘れないで

第一部の多文化交流プログラムは難民申請中の女性が作るカレーをみんなで食べながら始まった。ゴナツツのまろやかな風味だ。

（左記事参照）その後マキンサン教会牧師から、ミャンマー軍のクーデター後2年経った国内の様子を聞いた。空爆は今でも頻繁にあり、農村や町が破壊され、人々は故郷を追われ避難生活を余儀なくされている。水や食料さえ不足し、医療や教育を満足に受けることもできない。このような軍の支配に対し、不服従運動で市民は抵抗している。しかし、抵抗運動のリーダーたちは次々と捕まり、拷問の上死刑になった。それを見た子どもたちは、そんな目に会うくらいならと、次々に命を絶っている。アトトゥウミャンマー支援の会では、物資の支援のほか、毎週金曜の夜にミャンマーを忘れないため日本から祈りを捧げる。

### つないだ手をはなさない

第一部は渡邊さゆりさん（マイノリティ宣教センター共同主宰・アトトゥウミャンマー支援共同代表）から、日本に住む外国人の人権問題について聞いた。

多文化共生社会を掲げているにも関わらず、日本は制度上も

生活上も深刻な差別がある。それは外国人を「生産性のある外国人」とそれ以外に分断し、「日本にいていい人」を選別しているからだ。それは次世代にも引き継がれる。非正規滞在者となり入管施設から仮放免中に生まれた子どもは、生まれた時からオーバーステイ、つまり犯罪者扱いだ。入管法が改善され（上面参照）支援する側もやるせない、悔しい思いをすることが多い。でも、私た

ちはすでに共に生きてきた。私たちの持ついる本来の豊かなものがあるはず。これからもつないだ手を離さず、息の長いプロジェクトを続けていきたい。

（文責 編集部）



### 川本朋子さんに伺って（WITH：旧西日本入国管理センターを考慮の会所属） 「同じ人間として共に生きる」

今回カレーを作ってくれたNさんは、母国で政治的な問題に巻き込まれた夫と共に来日。その後息子のT君を授かったが、在留資格が切れ、夫婦で入管に収容され、T君は乳児院に預けられた。1年後によく仮放免されたが、他府県への移動の自由もなく、就労不可、健康保険にも入れない。いつまた家族3人が収容・強制送還されるかもしれないという不安定な生活。

そんな中でお母さんは愛情いっぱいT君を育て、彼らが出会った地域や学校の先生たちは彼らをできる限り助けてくれた。

日本語の読み書きが難しいNさんは息子の学校からの連絡事項を読んだり、勉強を教えることもできない。小学校高学年になりどんどん勉強が難しくなってきた時に出会ったのが元小学校教諭の川本朋子さんだ。

川本さんは勉強を教えるだけではなく、仲間と協力し、就学援助の申請を手伝い、学校に必要なお金や高校進学のために『T君教育支援金』を立ち上げた。

T君は中学で念願のバスケット部に入り、信頼できる友達もでき、3年間頑張ってきた。そしてこの春見事に志望校に合格した。

川本さんは「高校を卒業したら、苦しい中僕を必死に育ててくれた両親を助けたい。自分が生まれ育った日本で、大阪でというT君の夢を諦めさせたくない。これは彼らの問題ではなく、私たち受け入れる側の日本の問題だと思うからです。」と訴える。

### 出会い



### ぶどうの木

66歳の今、自分の人生を振り返ると、人との出会いに恵まれた人生だなと感じる。幼稚園、小学校の頃は担任の先生に憧れて「先生になりたい」と思った。学生時代には友達に恵まれた。自分が窮地に立たされた時にはいつも誰かが傍にいてくれた。家族ができてからは夫や子ども達に助けられながら、今もこうして大好きな仕事を続けられている。保育士になってからは沢山の子ども達や保護者、そして同僚との出会いが今も続いている。幸せだ。勿論良い事ばかりではない。別れや悲しみ、悔しさや苦しさも数えきれない程あった。これからもそんな事があるだろう。しかしこれからも人との出会いの中で乗り越え、成長できる自分でありたいと思う。人との出会いに感謝。そして私自身も人の力になれる人であり続けたい。

（会員 植木 知子）

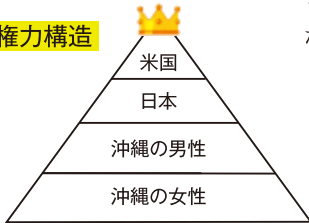
女性の人権

# 2023-2024 沖縄と大阪を結ぶ連続講座

ジェンダー

大阪と沖縄を結んで女性の人権とジェンダーの課題を考える連続講座が、沖縄YWCAとの協働で始動しています。第1回は、7月22日(土)『沖縄の貧困が若年女性たちに及ぼす影響 一夜の街で働く女性たちへのインタビュー調査を通して考える』、第2回は8月26日(土)『部落女性の立場から 家父長制と部落差別を考える』。共に、2会場とオンライン参加者をZOOMでつないで開催しました。

### 権力構造



写真/画像提供 沖縄YWCA

◆夜の街で働く女性たち  
2人の大学生が、性風俗産業で働く女性2人にインタビューした報告・考察に、大学講師の山城リンダさんがコメントしてくださるとい構成。

沖縄戦の後27年間の米軍統治を経た復帰後も、国家に有利な経済構造を押し付けられた沖縄。「子どもの相対的貧困率29・9%（全国平均14%）・10代の妊娠出産率全国平均の2倍以上」という現状の背景には、日米植民地支配の搾取・男性中心社会の搾取、というピラミッド構造があると指摘されました。（左の図）

インタビューに応じた2人の若い女性（1人はシングルマザー）は、それぞれの事情を抱えつつ、時給の高さに惹かれてキャバクラに勤め、「いろんな人に出会えて世界が広がる」とのコメントには考えさせられました。

### ◆家父長制と部落差別



発表表を担当した、沖縄の大学生 仲村さん(左)と長浜さん(右)

♪寝た子を起こして仲良くごはん♪がキャッチフレーズの講師・川崎那恵さん。大阪の被差別部落出身で、部落を隠して生きたいと願う親の方針に対し、学生時代に問題の本質を問うことを学び、反差別の運動にかかわるようになったそうです。

家父長制の根底には戸籍制度があり、それは日本の伝統でもなんでもなく、天皇中心国家確立のために明治政府が作ったもの。おかしいと思うことをまず学ぼう、とエネルギーに語られました。

\*  
\*  
2回を徹底するのは、社会構造の問題、被差別の中でさらに抑圧される女性の「複合差別」の問題でした。シリーズはまだ続きます。お楽しみに。

(文責 編集部)

### 戦争を回避せよ

8月29日国際女性年大阪連絡会主催の8月平和集会が行われた。テーマは「戦争を回避せよ」。講師は弁護士で新外交イニシアティブ代表の猿田佐世さんだ。

なりえないことや、輸出入の大半を中国に頼っている日本が「台湾有事」で米国側につくのは、第二次世界大戦で世界を相手に戦ったこと以上に愚かであることを話された。

新外交とは、既存の外交ルートに頼らず、独自の調査・研究による政策提言やシンポジウムの開催等を通して広く市民の声を海外に届けていこうというもの。例えば8月8日に麻生副総理が台湾で「戦う覚悟はできて」と国の総意かのような発言をしたけれど、猿田さん達はワシントンに飛び「いやいや日本国民は誰も戦いたいと思ってません」と米国議会や政府に伝えたとのこと。

講演で猿田さんは、軍備を増強することは戦争の抑止力にはと確信した。

(会員 辻川さとみ)

### わたしのイチオシ!

### クラゲ水族館



山形県鶴岡市にある加茂水族館は、クラゲに特化した水族館。館内は、どの壁面も、水槽いっぱいクラゲちゃん。お椀型、瓜みみたいな楕円形、ピカピカ光るもの、リボンのような触手を優雅になびかせるもの。可愛い訳でなく、芸もせず、囁きもせず、ただ漂って、時々ツイーと動いてみたり。見ていて飽きないのは謎です。

(会員 徳広 彩)

### 聖書の言葉

どうか、主があなたを助けて足がよろめかないようにし、まじろむことなく見守ってくださいように。

(旧約聖書 詩編121-3)



未来へ— 安心を創る

## FUJIKI 藤水工務店

大阪本店 〒541-0051 大阪市中央区備後町1-7-10  
ニッセイ備後町ビル1階 TEL06-4964-8700

憲法を暮らしと平和に生かそう

### 1967年創立 大阪中央法律事務所

検索

京阪線・地下鉄谷町線 天満橋駅より徒歩3分

お問合せ: 06-6942-7860

平日9:30~17:30  
初回相談料無料・当日相談可

(住所) 〒540-0033 大阪市中央区石町1-1-7 永田ビル4階

### 日本語教師汗まみれ



50年以上の歴史をもつ大阪YWCA専門学校の日本語教師養成講座は2024年3月末で幕を閉じます。

教師となった修了生の今を追いかけてみます。



ベトナムLHP中学校のみんなど (筆者 前列左から3番目)

ベトナムの田舎の中学校。教室の窓から見える田園と水牛たち。汗まみれの私を生徒たちはノートであおいでくれました。講座修了後、中国帰国者対象の日本語クラス、実習生受け入れ機関を経て、JF日本語パートナーズとEPAベトナムで教えました。いろいろな人との出会いに助けられ、導かれての今があります。現在も実習生や介護士、外国にルーツを持つ子どもたちと一緒に日本語を勉強しています。12年経った今でも養成講座は私の原点です。(内田 千景)



### 東日本大震災被災支援チャリティーコンサート

## 「stand by you vol.8」

2023年9月3日(日) 18時半〜21時半、北区菅原町にある「雲州堂」さんで、東日本大震災被災支援チャリティーコンサート「stand by you vol. 8」を開催。併設のdining「ORP1」でつまみや食事と飲み物を注文、美味しくわいわい多彩なアーティストの楽曲を楽しむ、素敵なひと時が3年振りに戻ってきた。投げ銭式の売り上げの一部を支援活動へ寄付いただいた。

出演者は、バワフルな歌声とキーボードの女性「Bee to Rap」(ハニートラップ)さん、女性2名男性1名でキーボード、ギター、鍵盤ハーモニカ演奏と聴かせの歌の「サンムーンパッケージ」さん、男性2名を従えた沁みる歌声の「AKO」さん、本企画の発起人我らが馴染みシンセサイザー「けんきち」さんと私たち大阪YWCAの5組。キーボード各種・ギターに彩られた歌、シンセサイザーの演奏、そして演者の嬉しいトークに、しばし疲れを忘れて引き込まれる3時間だった。大阪YWCAからはこれまでの被災支援活動をわいわいスライにも「興」、でもやはり対面が一番、を再確認した。次回にはみなさんも是非!

(会員 津戸 真弓)

今年もやります!

千里ガレージセール  
2023年10月28日(土)  
10:00~12:00  
場所:大阪YWCAシャロン千里

梅田クリスマスバザー  
2023年12月2日(土)  
13:00~16:00  
場所:大阪YWCA本館



### 7月運営委員会報告

【報告】 ▼6/17の評議員会で、次期理事・監事・評議員を承認 ▼女性エンパワメント部RUSVメンバー6名、関学YWCAメンバー6名で活動継続中。インタビューには大阪から2名、沖縄からは3名がオンラインで参加、2023年度進行中。

▼LA第3期 沖縄YWCAと協働で企画進行中 第1回7/22(土) 沖縄担当、第2回8/26(土) 大阪担当 ▼7/7~10 日韓カンファレンス 韓国ソウルで開催

【協議】 [19/9(土)] ピースフェスティバル、一部の参加費・内容などについて協議。 2部はLA企画 第3回と合同実施 [2] 運営委員会改革ワーキングチームからの提案について意見交換 [3] クリスマスバザー開催について

### 訃報

会員 西村由紀子さん 7月22日逝去(61歳)

### ご協力ありがとうございました

23/7/1~23/8/31 敬称略順不同

寄付 日本語本科 森山 孝子

奨学金 有山 正俊 岡部 順子 蔣 建業

女性エンパワメント部 出石いのちと平和 大杉美耶子

その他 社会福祉法人大阪基督教女子青年福祉会

会員維持費 太田三紀子 加藤 康子 川上 悦子

募金 山下つねよ 山川 文子

ワッコ株式会社 37口 447、146円